

其の二 全般について

一、成果の概要

満洲製鐵東邊道支社は當局指定職域団体重工業部門（満業関係）中の重点として四月資料保有者皆無のままに調査を開始したが鞍山本社よりの資料により逐次在籍者を把握し得て概ね所期の調査目的を達成することが出来た  
調査上重視せる事項は

- 1. 地點関係資料特に通化事件資料の収集
  - 2. 會社の組織・機構及在籍者の調査
  - 3. 應召（入隊）者の調査
  - 4. 移動（避難）状況
  - 5. 前各項の好資料保有者の把握
- 等であつて関係歸還者は近畿地區に甚だ僅少で合同調査に大なる成果を期待出来ない状況に鑑み準備調査を重視して廣く全国的に資料を収集したのと、合同調査に方り概ね希望せる出席者を確保し得たのにより此等大部の調査を了へることが出来た 但し第一項通化事件に関しては当社が該事件に直接的關係を持たなかつた爲大なる成果を収めることは出来なかつたが豫想外の多數資料保有者を掌握せる爲今後調査上價值のあることと考へる  
成果の細部については後述するが把握せる名簿類は左の通りである

社員名簿	三四九三名分
（好資料保有者名簿）	二一三名分
現地應召（入隊）者名簿	三二四名分
通化地區資料保有者名簿	三三一名分

二、調査の経緯

先づ三月下旬全國世話課に對し未歸還者（含一般邦人）名票の送付方を要求し前述の如く準備調査を重視して四月中旬以降通信調査及招致調査を行うと共に六月下旬合同調査更に七月補備調査を実施して調査を概ね終了した

その概況は左の如くである

(4) 準備調査

第一次通信調査 約 八〇通 四月中旬、五月中旬

第二次通信調査 約 二〇〇通 五月中旬、六月中旬

招致調査 二名 五月二十八日

合同調査 六月二十八、九日

出頭人員 二十一名（招致人員四二名出頭率五〇％）

(5) 補備調査

通信調査 約 五〇通 七月上旬

招致調査 一名 七月十七日

尙合同調査及招致調査時の出頭者名簿は別紙第一の通り

其の三 細部状況について

(7) 編成機構

東邊道支社は元の東邊道開發株式會社で昭和十八年四月滿洲製鐵株式會社に合併せられ従業員約三万名その中日本人は約三九〇〇名で通化市二道江に支社があり鐵廠子、七道江、大梨子、石人、松灣、杉松崗等通化省内地に九箇の鐵業所（採鐵、採炭所）を有してゐた

職制の細部及各採炭所の位置要圖は別紙第二、第三の通りである

(8) 應召（入隊）状況

一 重工業関係者は技術者が多い關係から一般に入隊延期、應召除外等の處置をとられてゐた爲昭和十九年迄は應召（入隊）者は僅少で昭和二十年に入り逐次活潑となり従業員の約二〇％内外が應召した模様である

二 應召状況を時期別に見ると左の様に分れるが昭和二十年五月が最も多く該支社關係未復員者の大部は此の時期の入隊者である

昭一九 現役入隊者（青年隊員）

昭二〇 一月一三月 青年者多く東、北滿國境方面へ入隊

五月一六月

七月 壯年者多く通化周邊部隊へ入隊

八月